

ドナウ の 四季

2019年・新春号・No.41

追悼：コーシャ・フェレンツ	盛田 常夫	1
ハンガリーで踊ること	鳥谷部 歩美	2
ハンガリーよさこい連「純恋」	モハーチ・エステル	5
三番目の故郷になった箕面市	コヴァチ・ヴェロニカ	8
日本では味わえない経験	河村 飛鳥	11
私の選択	太田 春希	14
私と、ハンガリーと、ランニングと	日野 暢	17
みどりの丘日本語補習校バザー報告		19

Heat Therapy in Oncology—Oncothermia
New Paradigm in Hyperthermia
Andras Szasz and Tsuneo Morita

腫瘍温熱療法—オンコサーミア

ハイパーサーミアのパラダイム転換——医術から医学へ

サース・アンドラーシュ／盛田常夫〔著〕



日本評論社

温熱治療のパラダイムを転換する

温熱治療を根本から見直し、
あるべき手法を示した著書。

曖昧な日常知を科学によって解明した画期的な著作。

オンコサーミア治療器は世界25カ国で利用。
ドイツでは百か所以上のクリニックで、
韓国の主要な大学病院に設置。

好評発売中。定価3200円+税。
大手書店、Amazonにて購入可。

第4章 腫瘍温熱療法

- 4.1 腫瘍温熱治療の基本概念
- 4.2 ハイパーサーミアの手法
- 4.3 熱の作用と併用効果
 - (1) 熱と血流
 - (2) ハイパーサーミアの併用効果
- 4.4 ハイパーサーミアの熱生成
 - (1) アンテナ放射
 - (2) 磁場(コイル)
 - (3) 容量性カップリング
 - (4) 伝導加熱
- 4.5 ハイパーサーミア治療が抱える問題

第5章 オンコサーミアの理論と方法

- 5.1 電場の利用
- 5.2 細胞燃焼
- 5.3 腫瘍治療における細胞加熱
- 5.4 ミクロスコピック加熱
- 5.5 集束化の原理
- 5.6 温度の役割
- 5.7 安全性
- 5.8 積算量(ドーズ)
- 5.9 臨床事例

第6章 自然療法としてのオンコサーミア

- 6.1 ホメオスタシスの復位
- 6.2 細胞の自然死の促進
- 6.3 細胞転移の阻止
- 6.4 転移がん細胞に作用

第1章 ハイパーサーミアの歴史と評価

- 1.1 ハイパーサーミアとは何か
- 1.2 ハイパーサーミアの曖昧さと課題
- 1.3 ハイパーサーミアの歴史的概観
- 1.4 腫瘍治療のハイパーサーミア

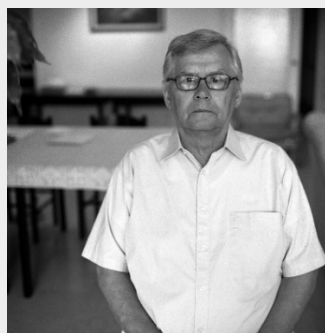
第2章 ハイパーサーミアの物理学

- 2.1 電磁気学の基礎概念
 - (1) 電磁気現象
 - (2) 電場と磁場
 - (3) キャパシタ
 - (4) 位相シフト
 - (5) インピーダンス
 - (6) 電磁波
- 2.2 バイオ電磁気学
 - (1) 電磁波スペクトル
 - (2) バイオインピーダンス
- 2.3 「非熱」効果
 - (1) 非温度依存(NTD)効果
 - (2) 電磁場におけるNTD効果
 - (3) 電磁気による目標選択
 - (4) 電磁気と生体システム

第3章 ハイパーサーミアの生理学

- 3.1 生体におけるエネルギー、熱、温度
- 3.2 生体における温度制御
- 3.3 生体の加熱と体温
- 3.4 加熱による温度の分布
- 3.5 全身加熱と局所加熱の本質的な差異
- 3.6 加熱と冷却:リスクとその回避
- 3.7 温度測定と熱積算量(ドーズ)

追悼：コーシャ・フェレンツ



Kósa Ferenc (1937-2018) ■ fotó: Lugosi Lugo László / MMA

映画監督でハンガリー芸術アカデミー正会員のコーシャ・フェレンツが、2018年12月12日、永眠した。10数年前に心筋梗塞を患いながら余命5年の宣告を乗り越え、近年は不整脈に悩まされていたが、81年の生を全うした。

コーシャ・フェレンツは1960年代に頭角を現したハンガリー映画の新世代に属しており、社会主義時代の不毛な映画界の刷新に大きく貢献した。1967年のカンヌ映画祭に出品した「1万の太陽」(Tízezer nap, Ten-thousands Days, Ten-thousands Sun)は最優秀監督賞を受賞し、コーシャ監督の国際デビューとなった。その後、ハンガリーのドージャ・ジョルジュの処刑を扱った Ítélet やヨージェフ・アッティラの自伝をベースにした Öngyilkosság などの歴史的人物を対象にした映画や、日本の映画から着想を得た Hószakadás (ドカ雪) などの優れた映画を制作した。

コーシャ・フェレンツにとって、個人的に経験した大きな歴史的イベントは1956年のハンガリー動乱だった。処女作「1万の太陽」は1930年から1960年までの30年の歴史(1万日)を生き抜いた一つの家族を

扱ったもので、戦前編と戦後編から成り立つ家族の生き様を描いたものである。とくに動乱の描写には個人的体験が盛り込まれており、ハンガリー共産党(社会主義勤労者党)の活動家の処刑をめぐる描写がある。登場人物は動乱を「革命」と呼んでおり、これがハンガリー国内での上映禁止(およそ2年)を招いた。

本格的な映画制作としては最後の大作となった A Másik Ember (「いま1人の人」あるいは「もう一人の人」)は、処女作と同様に戦前編と戦後編になっており、一つの家族の生き様を描くという点で、「1万の太陽」とよく似たシナリオになっている。この映画の戦後編は1956年の動乱に参加した主人公の迷う心の変化と、出身地の村の母や祖父の心情を描いている。この映画も処女作と同様に、ハンガリーの戦後のタブーであるハンガリー動乱を扱っていたために、制作年の1987年の即時の上映は叶わず、1989年に上映が許可され、体制転換を後押しする力となった(この映画の評論は以下のサイトを参照されたい)。

(<http://www.morita-from-hungary.com/japanese/05.htm>)

映画の脚本のほとんどはコーシャ自身が書き下ろすか、生涯の共同制作者チョオリ・シャンドールとの合作である。コーシャ映画の撮影はシャーラ・シャンドールが担当しており、チョオリとシャーラは生涯の友であり、共同制作者であった。コーシャは、チョオリとシャーラが待つ天国へと旅立った。

(2018年12月、盛田 常夫)

ハンガリーで踊ること

コンテンポラリーダンサー 鳥谷部 歩美

私は現在、ブダペストを拠点にコンテンポラリーダンスを中心とした活動をしています。ハンガリー人をはじめ、国際的なアーティストとのコラボレーションワークは、いつも新しい発見があって面白いです。私は12歳でバレエを始めてから、「踊り」という全身を使った表現方法に魅力を感じています。中学・高校時代、アメリカへ2度の短期バレエ留学に行った際、私は一日中踊りを学べることに幸せを感じ、またこんな生活をしたい！と強く思いました。日本で踊りを習い続けることも可能な中、私が留学への道を選んだのは、海外での文化に対する考え方や、日本にはないような踊りのための学校のシステムを知ることで、自分の将来像に対しての希望が見えたからです。日本で高校を卒業後、ドイツへのバレエ留学、イタリアにてプロフェッショナルトレーニングコースを受けるなど約4年間に渡ってヨーロッパでダンストレーニングに励みました。



2017年夏、私は日本からハンガリーへやってきました。ハンガリーに来ることになった理由は「ディレクターからの返信が早

かったから」といっても過言ではありません。少し残念な話ですが、例えば、踊りの機関10カ所へメールを送っても2カ所からしか返事が来ないというようなことはよくあることで、私もまた、海外との連絡が上手く取れずに困っていました。国が違うと時差がつきものです。連絡を取り合うために夜中まで起きていたり、早朝に起きたりということはしょっちゅうでした。そのため、海外と連絡をスムーズに取れることが、当時日本にいた私にとってはとても重要なことだったのです。

イタリアでのコースを終えて日本に帰国した私は、次に踊る場所をまだ見つけることが出来ていませんでした。イタリアで学んだ9か月間は、私がこの先コンテンポラリーダンスをやっていくきっかけを掴んだ時期でもあり、日本でバレエを学んできた私にとっては、コンテンポラリーダンスを踊る場所を見つけることは、ゼロからのスタートと同じでした。日本で活動していくことも一時真剣に考えた私ですが、それまで経験してきたこと、様々な国の人たちとの思い出が私の心をヨーロッパへと繋ぎ止めました。最後のチャンス！と家族と自分自身に言い聞かせ、私は再び履歴書を様々な場所へ送り始めました。そこで最初に届いた良い返事が、今のディレクターからだったのです。

私は当時、ハンガリーのことをよく知りませんでしたが、ダンサーとして出来るだけ早く、自分がいるこの環境を変える必要

があると思い、そのダンスプログラムに参加することを決めました。いざブダペストへ着いてみると、不思議なことに懐かしい雰囲気を感じ、ここで生活していくことを想像するのは案外難しくありませんでした。最初の一年間は、プログラムに沿って色々な踊りを学びます。バレエ、コンテンポラリーダンス、コンタクトダンス、ボディーアウェアネスダンス、ピラティス等です。それまでダンスのテクニックを中心に習ってきた私は、身体の内面に焦点を当てて行うソマティックダンスをすることは新鮮でした。自分独自の動きをいくつも発見し、自身の踊りを内部から見つめ直すことができる良い機会でした。自分の年齢と同じ分だけこの身体と共に生きてきたのにも関わらず、そこから新しいものに気づく感覚はとても面白く、不思議な感じです。そんな中、時間を見つけては公演に足を運び、ダンスワークショップにも積極的に参加するなど、ハンガリーでのダンスコミュニティを少しずつ広げていきました。



ある日、私の先生からソロ作品と一緒に作ってみたいかというお誘いを頂き、私は徐々にダンスプログラム以外の活動も始めました。そのうちの一つが舞踏の作品です。皆さんは、この日本発祥のコンテンポラリーダンスをご存知ですか？ 実を言うと、私が最初に舞踏のことを耳にしたのはイタリアにいたときでした。その言葉に親近感を感じたものの、はっきりと何かはわからず、インターネットで検索したことを覚えています。私の先生は以前、舞踏マスターの竹之内淳志さんから舞踏を教わった時期があり、舞踏の要素を自然と私に伝えてくださっていたようです。それに気が付かないほど、舞踏は私の身体にすんなりと入ってくるものでした。私がある作品を踊った際に、見ていた人から「あなたが踊っているのは舞踏だよ」と伝えられて初めて自覚した時は驚きました。その後、ご縁があつて竹之内さんと同じ公演で踊らせて頂けたことは本当に光栄でした。日本の踊りをヨーロッパで知り、学び、広めていくという経験はすごく新鮮です。ブダペストの庭園で行われた桜まつりでは、ハンガリー人の尺八の演奏家と共に舞踏の発表を行いました。舞踏を通してヨーロッパの中にある日本に気が付くことができたようで、私のハンガリーに対する視野はどんどん広がっていきました。また、少しずつですが自分の経験を他のアーティストと共有する機会を頂くことができたことも大変嬉しく思います。2017年のSziget Festivalでは、オーストラリア人の振付家 Liesel Zink のもと、ローカルダンサーとして作品に携わることができました。

今年は、ハンガリー国立文化財団(NKA)

の 25 周年に伴い、25 歳のアーティストが集って行うガラ公演があり、私も参加させて頂きとても貴重な経験となりました。参加者それぞれが異なるアート活動をしているため、共に何かを作り上げることはお互いにとって挑戦でもあり、良い刺激となりました。私がハンガリー人のディレクターと作成したソロ作品「Augmented spaces」はブダペストで行われたダンスフェスティバルにて短編を発表したのち、初の単独公演を 2018 年 6 月に行い、12 月にはルーマニアでの初演が実現しました。2019 年に開催される日本でのダンスフェスティバルへの参加も予定されています。私にとって、コンテンポラリーダンスを日本で発表することは今回が初めてとなるため、今からワクワクしています。ハンガリーで作上げたものを母国で発表することは私の目標の一つです。この機会に心より感謝し、この先に繋ぐことのできるものにしたいと思っています。

しれない、そんな風に思う出来事に幾度となく遭遇します。そういった日々の出来事に基づいた作品作りをすることで、言葉以外の方法でも人々と「何か」を共有することをこれからも続けていきたいです。また、踊りはその時の感情そのものを、言葉よりも明確に直接人へ伝えられる気がするので、この表現方法には終わりが無いように感じます。私がハンガリーで生活する上で培う経験は、ダンサーとしての活動範囲を多いに広げ、ダンスアーティストとしての個性に繋がっていると強く感じています。

(<https://ayumitoyabe.themedia.jp/>)



私はハンガリーで生活していると、日本人だからこう感じるのかもしれない、生まれ育った環境と違うからこう見えるのかも

ハンガリーよさこい連「純恋（すみれ）」

Mohácsi Eszter



はじめまして。私たちのハンガリーよさこい連「純恋」は 2018 年の 2 月に設立されました。その時から、私たちにとってよさこいは「いきがい」みたいなものです。チームは徐々に広がっています。私たちの目的はよさこいで日本文化を広めることです。どうぞよろしくお願いします。

よさこいを知らない人もたぶんいると思います。だから、ちょっとここでよさこいの歴史について書こうと思います。

よさこいは 1954 年に高知県で生まれた踊りです。その時からだんだん人気になりました。今は、よさこいは日本で最も人気のダンスの一つだそうです。

よさこいの伝統的な楽器は「なるこ」というものです。元々、「なるこ」は稲田で鳥にたいして使ったものだったそうです。その後、楽器に変化しました。よさこいに必要な衣装は「はっぴ」と呼ばれています。これはガウンみたいなものです。色、絵柄、長さ、スタイルはチームによって違います。

人々がよくよさこいを踊る機会はお祭りです。一番大きなよさこいまつりは高知県で開催される有名な「高知よさこい祭り」です。

よさこいは、一言でいえば、非常に面白くて、勢いがよくて、伝統的な踊りだと思います。



上に書いた通り、ハンガリーよさこい連「純恋」は 2018 年の 2 月に設立されたチームです。チームの設立者はよさこいアンバサダー田中恵美子先生です。彼女は毎年高知県のよさこい祭りに国際よさこいチームを作って出場しています。

最初、私たちはたった一つの踊りを学びました。その後もう一つ、そして、もう一つ。今は 6 種類のダンスの振り付けができます。例えば、最も伝統的な、1954 年のよさこい祭りで踊られた「せいちょう」や、2018 年高知県のフェスティバルで桜舞ポーランド国際チームが踊った「きずな」などです。

現在、「純恋」のリーダーは二人います。サボー・ヘンリエッタさんと、私、モハーチ・エステルです。チームには現在 15 人のメンバーがいます。毎週木曜日、みんなで一緒に練習しています。

私たちのチームは今まで多くのイベントに参加することができました。ハンガリーで行われる最も大きなアニメ・漫画イベントであるモンドコンでは 3 回も踊りました。

春は、日本語スピーチコンテストとこどもの日のイベントに参加しました。

夏は、ポーランドの「桜舞ポーランド」というよさこいチームが私たちをワルシャワに招待してくれました。それで、ハンガリーよさこいチーム純恋はポーランドに行って、ワ

ルシャワで開催されたお祭りで桜舞ポーランドのチームと一緒に踊ることができました。

夏の終わりのある日、チーム・ビルディングを行いました。その時は、ブダペストの有名な、人気がある名所でフラッシュモブをしました。例えば、ハンガリーの国会議事堂の前、聖イシュトヴァーン大聖堂の前、マルギット島などで踊りました。

秋は、ファンタジーエキスポというイベントに出ました。その後、また一緒に踊るために桜舞ポーランドを秋のモンドコンに誘いました。合同で踊るのはすばらしかったです。

冬が来たとき、私たちは新しいダンスを勉強し始め、新しいメンバーを募集する目的で、多くのワークショップを開催しました。例えば、ELTE でも、国際交流基金ブダペスト日本文化センターでもワークショップをしました。

結束力を強めるためにたくさんコミュニティ・プログラムも行っています。例えば、厳しい練習の後で一緒にアイスを食べに行ったり、12月6日にサンタクロースの日を祝ったりしました。

また、SNS もできるだけ利用するようにしています。フェイスブックやインスタグラムやユーチューブでも私たちハンガリーよさこい連 純恋 を見つけることができます。

私たちの目的はよさこいを通して日本文化を広めることです。ハンガリーよさこいチーム、純恋は頑張りますから、時間とやる気があれば、ぜひ踊りにきてください。

(モハーチ・エステル、チームリーダー)

<https://www.facebook.com/sumireyosakoi/>

三番目の故郷になった箕面市

Kovács Veronika



エトヴェシュ・ロラード大学で日本学を専攻していて、副専攻は韓国学です。故郷はセグドという町で、大学に通うためにブダペストに引っ越しただけでも楽しくて、その時は、二年後さらに新しい場所に行けるとは思っていませんでした。

日本学科で勉強している学生はたいてい日本に行きたがっていると思います。私もそのような学生の一人でしたが、自信があまりなくて、いつか行けるかどうかぜんぜん知りませんでした。しかし、その機会は

二年生の時にやってきました。そして、2018年9月に大阪大学に一年間の留学のために来ました。

日本に来る前にも、来る途中にも、色々な困難がありましたが、日本に着いた時、全部忘れました。日本に着いた時、とても嬉しくて、ワクワクしましたので、それまでの困難を忘れて、考えられたのはやっと日本にいることだけだったということです。台風のせいで大阪ではなく成田空港に到着しましたので、最初の日にもう新幹線なども経験できました。大阪に着いてから、時々どこに行ったらいいかよくわからなくなりましたが、手伝ってくれる方がどこにもいました。お願いしなかったのに手伝ってくれた奥さんもいて、次の駅まで連れていってくれました。だから無事に大学に着きました。

大阪大学の箕面キャンパスは山の多い箕面という町に建てられています。箕面市はたぶん日本の他の町と比べると少し小さいと言えますが、私にとっては完ぺきな町です。子供の時から山に住みたかったですので、箕面市がすぐに好きになりました。日

本に来てからもう二か月たって、その間に色々な経験をすることができました。ハンガリーでは私は橋からイノシシを見たり、キャンパスでヘビに会ったりしたことが全然ありません。自然が近いので、素敵な場所が多いです。たとえばキャンパスから少し歩いたら、山の上から大阪府が全部見えて、美しいです。そしてもちろん箕面の滝も特別な場所の一つです。箕面の滝は、ライトアップもあって、きれいでした。友達と一緒にみじの天ぶらを食べてみました。

箕面市のもう一つの大きな魅力はたぶん雰囲気です。普通の買い物をするだけでも、気分がよくなります。寮から出ると、運動をしている方がたくさんいて、やる気がある声がよく聞こえます。もう少し歩いたら近くの学校の生徒さんに会えて、週末だったら、たいてい家族と一緒に出かけているのが見られます。市民はとても優しく、道で挨拶をしたりする方もときどきいます。

私はこんな箕面市を自分の三番目の故郷だと思っています。しかし、そのことには友達がやっぱり大きな影響を与えました。友達や仲が良い人がいなかったら、住んでいる所はきれいでも、故郷にならないと思

います。実は、最初は知り合いがいなかったんで、少し寂しくて、友達ができるかどうか心配しました。しかし、そのうちに機会がたくさん現れました。寮に住んでいる学生さんや授業と一緒に通う学生さんに会って、どんどん仲良くなりました。その上、色々なパーティーや旅行もあって、そこでも話す機会が多かったです。そして箕面キャンパスにあるハンガリー語科の影響も忘れてはいけません。一週間に一回ハンガリー語の授業に行って、もうハンガリーで会ったことのある学生さんとハンガリー語で話せる時、特別な気持ちになります。チューターさんもハンガリー語科の学生さんですから、心配なことがあっても、会うと安心できます。

日本でのもう一つの新しい経験はホストファミリーがいるということです。ホストファミリーについて色々な話を聞いたことがありましたが、そのようなプログラムに参加するのは初めてでした。だから緊張しましたが、ホストファミリーのおかげで嬉しい瞬間がたくさんあって、これから色々なイベントと一緒にいくつもりですので、このプログラムに参加してよかったとよく思っています。

でも、日本に来たかった主な理由は研究と勉強でしたので、もし授業が気に入らなかったら問題になったと思います。幸い、大阪大学の問題は、面白い授業が多すぎて、選ぶのが難しいということです。日本語と日本の文化に関する講義が色々あって、だいたい好きな授業を選ぶことができます。くずし字などのようなハンガリーであまり取れない授業もありますので、大学に通うのは毎日楽しいです。私は今、研究するための授業も取っていますので、指導の先生のおかげでもう色々な資料を集めることができました。その資料や授業の内容は今だけではなくて、将来にもとても役に立つと思います。

このように、日本ではもう多くの経験を得ることができて、この二か月の間に生活にもだいたい慣れてきて、今住んでいる所は本当に私の「故郷」のようになったと思います。しかし、まだ数え切れないほどたくさんの方の期待があるので、将来を楽しみにしています。

(コヴァチ・ヴェロニカ)

ハンガリーを代表する赤ワインワイナリー
GEREワイナリーが日本人のワイン愛好家の皆様に、通販サイトを開設しました。

www.gere-club-japan.com

GERE

GERE ATTILA PINCÉSZETE



KOPAR 2012は皆様のご愛顧のお陰で、在庫切れとなり、販売を終了しました。今後は、**KOPAR 2015**をよろしくご愛顧ください。

最高級赤ワインのセットを、ご自宅に配送します。
日本へは国際宅急便(6本の配送費90ユーロ)で、
ハンガリー国内は200ユーロ以上の注文で送料が無料になります。



各種ワインセットの他に、低温圧搾ぶどう最高級オイル、
ぶどうの種と果皮をミクロンのサイズに粉碎した、
ポリフェノミクロンも、通販サイトを通して購入できます。



GERE-CLUB-JAPANの会員になれば、
各種の特典が得られます。GERE ホテルの予約も、
通販サイトを通せば、日本語で予約ができます。



www.gere-club-japan.com

GERE

GERE ATTILA PINCÉSZETE

ハンガリー・ヴィッラーニ地方の赤ブドウ加工品

GEREワイナリー製品

無添加自然加工(自然の恵みもの)

ポリフェノミクロン(商標登録申請中)



100% SZŐLŐMAG OLAJ

シードオイル(箱付き、250ml)

ポリフェノールと不飽和脂肪酸を含んだ赤ブドウの極上低温圧搾シードオイル

成分構成: 不飽和脂肪酸 min. 80%, ポリフェノール min. 6%

使用法: サラダなどの冷たい食べ物に直接かけたり、パンへ直接かけて、ほのかな香りを楽しみ、食欲を増進。

1日の摂取量: 小さじ1杯(およそ5g)を毎朝、可能な限り、空腹時に摂取するのが望ましい。



SZŐLŐMAG & HÉJ MIKROŐRLEMÉNY

種子と果皮のミクロ粉末
(ポリフェノミクロン)
(カプセル180個)



KÉKSZŐLŐMAG & HÉJ

種子と果皮のミクロ粉末
(缶入り徳用缶、150g)

ポリフェノールをふんだんに含む有機栽培赤ブドウの種子と果皮を粉碎したミクロ粉末

ポリフェノール成分: 5gの粉末はおよそ250mgのポリフェノールを含む。

使用法: 粉末をそのまま食することは避け、ヨーグルトなどに混ぜて食する。

1日の摂取量: 1日に小さじ1杯の粉末を2回に分けて摂取。

100% SZŐLŐMAG OLAJ/ KÉKSZŐLŐMAG & HÉJ

シードオイル&ポリフェノミクロンセット
(化粧箱入り)

以下のサイトから購入できます。

<https://www.gere-club-japan.com>

日本では味わえない経験

リスト音楽院ピアノ科大学院 2 年

河村 飛鳥



大学を卒業してから、2016 年リスト音楽院に入学するまで 5 年半ものブランクがある。卒業後は大学院を受験せず、地元である岐阜に戻り音楽活動をしてきた。舞台芸術の振興と発展のために、舞台芸術振興会の一員として地域振興を行ってきた。卒業後は今までの貯筋で何とか出来たものの(手の筋肉や指が動く等、技術的な意味で)、ブランクが 4 年…5 年…と増えるたびに貯筋がなくなり後退していることに気がつき始めた。そんな思いのなか「ぎふ・リスト音楽院マスターコース」を受講することになり、レベルアップのためにもっと音楽を学びたいという意欲に火がついた。そして留学選考会の試験に無事合格し、1 年間のパートタイム入学が決まったのである。

入学した 2016 年 9 月は、ハンガリーで 5 年に一度のフランチ・リスト国際ピアノコンクールが開催されていた。会場でもあるリスト音楽院の周辺には数多くのアプライトピアノが路上に置いてあったのがとても衝撃的であった。日本だと恥ずかしがって弾かない人が多いと思うが、ここでは

多くの人がピアノに興味を示したり、夜中には酔っ払いが演奏している等、昼夜問わず音楽に溢れているのが印象的であった。良い意味で自由なところが留学への不安からも自分を開放的な気分させてくれた。(残念ながらコンクールの終了をもってピアノは片付けられている)

Gulyás István 先生の下で学ぶことになり、パートタイムコースでは週 1 回のレッスンと週 2 回のハンガリー語の授業を受けることになった。残りの時間は自分の音楽を一から見直す時間に費やし、自分には何が必要なのかを先生と相談しながら出された課題をこなす毎日で、楽譜から作曲者の意図を読み取る大切さを学んでいった。具体的には楽譜や時代背景から作曲者が伝えたいメッセージを読み取り、印象や直感による主観的な演奏ではなく、客観的な視点から情報を得て自分の言葉として表現することである。特にピアノは鍵盤を叩けば誰でも音程の正しい音を鳴らすことができ、楽譜の通り正しく演奏すれば何となく弾けている気にもなれる。だがそれは演奏者であって表

現者ではないのだ。表現したい音色によってテクニックも違い、音を鳴らす前に音のイメージを持つことが大切なのである。先生はとても丁寧で出来ない私にも親切に教えてくださった。楽譜と向き合う時間が増え、少しずつではあるがイメージした音が出せるようになってきた。徐々に音色の引き出しが増え、音楽に立体感と説得力を少しもたらせるようになった。

また、ハンガリーで演奏する機会も何度か頂けた。とくに印象に残っているのはブダペストも冷え込んできた11月末、ISASZEG（イシャセグ）という首都から30kmほど離れた小さな町でクリスマスのアドベントコンサートに出演したことだ。アドベントというのは、キリスト教ではキリストの再臨を表現する言葉として用いられている。11月30日に一番近い日曜日からイブまでのことを指し、11月からクリスマスマーケット等で徐々に町がクリスマス一色になってくる。コンサートではピアノソロの他にフルートの岩下榛華さんとのデュオ、それに地元合唱団の伴奏をした。博物館に置いてあるような古いベーゼンドルファーで音をコントロールしながら演奏するのは至難の技だったが、とても貴重な経験となった。演奏終了後に湧き上がる拍手、ブラボーの嵐、アンコールの手拍子等、日本では味わったことのないような拍手喝采だったことを今でも鮮明に覚えている。

ハンガリーは我々学生にはとても有り難く、大学内で行われるコンサートは無料だったり、他で行われるコンサートやオペラ、ミュージカルも安い席は数百円程度で鑑賞できとても気軽にコンサートに行くことができる。一流ピアニスト、デニス・マツエフの演奏をステージ上の特等席で聴けたことも留学していなければ出来なかった経験だ。ハンガリー以外の国でのコンサートにも足を運んだが、どれも演奏者と聴衆との一体感があり、感情を抑えがちな日本人とは違った。自分自身を表現することは素晴らしい。私も演奏者(表

現者)であるため彼らからも多くのことを学び、これからの演奏に活かしていきたいと思った。

受験を終え大学院生として学ぶこととなった2年目。先生にお願いしてレッスンを週2回にいただき、室内楽や現代曲のレッスン、アナリーゼ、音楽史等、必修授業も増えた。ある日、大学で開講されたマスタークラスで渡辺先生の公開レッスンを受講することができた。先生の下で学んでいた高校時代。当時の演奏は酷く良い印象は持たれていなかっただろう。レッスン終了後、10年ぶりの再会ではあるが声をかけさせていただいたところ覚えてくださっていた。また当時からの成長を褒めていただけたのが嬉しかったのと同時に、今まで頑張ってきたのが間違いではなかったのかと思える瞬間だった。

ひとつ驚いた話がある。ハンガリーで出演予定だったコンサートの前日、関係者から一通のメールが届いた。「ピアノを移動していたら、ピアノの足が壊れてしまい明日のコンサートが出来なくなりました。代わりの日が決まったらまた連絡します。」という内容だった。こんな事があるのかと思った。しかし考えてみればハンガリーは日本と違って歴史を感じる古いピアノだったり、あまり整備が行き届いてないようなピアノを演奏する事が多々ある。大学のピアノも鍵盤が取れていたり、ペダルが折れていたりすることもある。だがそれはハンガリーに限られた話ではない。逆に言えば、日本はピアノの状態が良すぎるのかもしれない。。。ピアニストは普段から家で練習して慣れているピアノで本番をできないのが宿命である。それに慣れていたら色んなピアノに対応できず思うように演奏できなくなる。彼らはその分対応できるスキルが日本人よりあるのではないかと考えさせられた。

3年目となり大学院2年生となった今、5月にディプロマコンサートを控えている。留学直前にリサイタルを行ったのに続き、今回は2度目。前回の反省点を活かし、またハンガリーで学んだこ

とを全て出し切り悔いなく終えることが今の目標である。

留学するにあたり築いてきた音楽活動も休止したことで多くの方々に迷惑をかけ、また理解があつて今の私がここにいる。生活のサポートしてくださっている両親、ご指導くださった先生方、また仲間や応援してくださっている方々の期待を裏切らないために、残り半年の留學生活でこれだけ

は頑張ったと胸を張って言えるような強みが持てるよう頑張っていきたい。「現状維持では、後退するばかりである」ウォルト・ディズニーの言葉だ。昨日の自分自身を超えるためにも限られた時間を有効に使い、少しずつ前進していきたい。

(かわむら・あすか)



2018-2019年度 リスト音楽院日本人留学生卒業コンサート情報



河野 早紀 (大学院・ピアノ科)

4月23日(火) 19時開演 会場: リスト音楽院ショルティホール

曲目: バード: ネヴェル夫人のグラウンド

ショスタコーヴィチ: 24の前奏曲とフーガより 7,12,15,24番

バッハ: ピアノ協奏曲 第5番 オーケストラ ピアノパート: Balázs Szokolay

ショスタコーヴィチ: ピアノ三重奏曲 第2番

ヴァイオリン: Mikola Ivanovich Roman チェロ: Peter Hány



天川 真奈 (大学院・ピアノ科)

5月18日(土) 16時開演

会場: リスト音楽院ショルティホール

曲目: ショパン: ピアノソナタ3番

スクリャービン: ピアノソナタ9番 黒ミサ

リスト: ピアノ協奏曲1番、その他



村田 かれん (大学院・ピアノ科)

5月6日(月) 19時開演

会場: リスト音楽院ショルティホール

曲目: ベートーヴェン ピアノ協奏曲 第3番 Op.37、その他

共演: Alba Regia 交響楽団



河村 飛鳥 (大学院・ピアノ科)

5月20日(月) 16時開演

会場: リスト音楽院ショルティホール

曲目: リスト: ピアノソナタ短調

カプースチン: フルートとチェロのトリオ、その他

共演: フルート: 岩下 榛華

中川 真 (大学院・ピアノ科)

5月24日(金) 19時開演

会場: リスト音楽院ショルティホール

曲目: リスト: 巡礼の年 第2年「イタリア」より

ダンテを読んで - ソナタ風幻想曲、その他



川本 嵐 (大学院・ピアノ科)

5月26日(日) 19時開演

会場: リスト音楽院ショルティホール

曲目: リスト: ピアノ協奏曲第1番

ベートーベン: ピアノ協奏曲第4番、その他

指揮: 原口 祥司 共演: ドナウ交響楽団



山神 壮平 (大学院・ピアノ科)

6月1日(土) 19時開演

会場: リスト音楽院ショルティホール

曲目: シューマン: 謝肉祭「4つの音符による面白い情景」Op.9

ブラームス: 三重奏曲 Op.114

ラフマニノフ: ピアノソナタ 第2番 Op.36 (1931年版) その他

共演: クラリネット: Mészáros Dániel チェロ: 水野優也



注意: 入場無料コンサートですが、リスト音楽院大ホール及びショルティホールでの公演はリスト音楽院本校舎内にあるチケットセンター(1061 Budapest, Liszt Ferenc tér 8.)で事前予約・受け取る必要があります。

Email: zeneakademia@interticket.hu Tel: (06-1) 321-0690 最新情報はこちら <http://paprikatsushin.blog.fc2.com>

私の選択

カーロリ大学

大田 春希

ハンガリーに来て四カ月が経ちます。とは言っても、ハンガリーに留学するのは初めてではありません。最初の留学は二年生の後期から三年生の前期までの一年間。今回は四年生の後期の卒業までの半年間です。だから、合計一年と四カ月が経ったところです。

どうしてハンガリーに留学しようと思ったか。最初にハンガリーに興味を持ったのは偶然の出来事でした。ハンガリーが留学先として思い浮かんだ時に何か強い思いがハンガリーにあったわけではありません。ある日、偶然見ていたテレビで日本語学科の学生が特集されていました。日本が大好きな日本語学科の学生。私はそれまで、自分自身の教室で受ける授業、英語の習得の事しか考えていませんでしたが、そのテレビを見て、単純に「あ、ハンガリーに行けば、こういう人に会えるのか。楽しそう」と思いました。これがきっかけでハンガリーの事について調べ始め、一番興味を持ったのはハンガリー語。専攻ではないのでハンガリーに行く前に少しだけ独学で身に付けただけのよく分からない言語。英語が嫌いなわけではなかったのですが、「授業で勉強しなければならない言語」とは違って「身に付けたい」と選んだ言語の勉強はどこか楽しかったです。こうして私は地理の授業でしか聞いたことなかったようなハンガリーという国に留学することになりました。「カーロリ大学でどんな友達ができるのだろうか」そんな期待と「人見知りの私に友達ができるのだろうか」という不安を持って私は初めてハンガリーに来ることになりました。しかし、一歩日本語学科に足を踏み入れれば学生も先生もとても温かく、ほっとするカーロリ大学の雰囲気が大好きになりました。

一年間はあっという間で、「まだまだハンガリーにいたい」という気持ちは増すばかりでした。そして、いつかハンガリーで働きたいとも思うようになっていました。帰る頃には本当に驚くほど多くの友人ができていました。ハンガリーで得た友人はハンガリー人だけではありません。ここには様々なバックグラウンドを持った日本人もたくさんいます。こういう方々と話していると、私も新しい考え方ができるようになったり、彼らを見習いたいと思ったりしました。帰国が近くになるにつれて、ハンガリー人の友人からは、「帰らないで!」、「またハンガリーに戻ってきて!」とこれまた温かい言葉を多くいただきました。帰国後はもう一度ハンガリーに留学すべく、留学申請が始まった途端に、何も考えずに留学先はハンガリー、しかも大学はカーロリ大学を選びました。一回目と二回目の留学の間には一年ありました。四年生の前期で卒業単位を取り終わらなければ留学はできないということだったので、大急ぎで卒業単位の修得し、六月までに就職先が見つからなければ、必死に内定先を探しました。大学の先生からは、「二回目だし、行き先も同じだし、行けなくても諦めなよ」と言われていました。

しかし、私のハンガリーに対する熱い気持ちはそう簡単に諦められるものではなく、どちらも本当に苦労しましたが無事に終わらせて、こうして二回目の留学をしています。二回目の留学でも大学に行けば久しぶりに会う友人が歓迎してくれて、驚いている人もいました。まさかこんな短いスパンで戻ってくるなんて誰も思っていなかったでしょうから。私と同じように海外留学を二回経験した先輩からは、「二回目の留学はやっぱり新鮮さに

欠けるし、前回ほど頑張らなきゃいけない何かが明確にあるわけじゃないから、前回と比べると楽しさは半減する」というようなことを聞いていました。確かに、二回目のハンガリーに新鮮さはありませんでしたが、すべてが懐かしく、アットホームな雰囲気に帰省感覚で二回目の留学はスタートしました。今回はハンガリーでやりたいことを前回より明確でした。ハンガリー語の勉強と前回やり残したハンガリーでしかできないことを満喫すること。カーロリ大学とは別にエルテ大学のハンガリー語コースに通ったり、お店や道で人と話

す時は限界が来るまでハンガリー語で話したり、ホームステイをさせてもらったりしました。前回よりもハンガリー語が分かる状態で来たおかげで体験できることの幅も広くなり、ハンガリー語のみでコミュニケーションをとれるようにもなりました。そして、心の余裕ができたのか、日本人以外のハンガリーに留学している学生とも交流する機会が増え、成長を感じながら前回の留学以上にハンガリーを楽しんでいます。二回目の留学に同じ国、同じ大学を選んだ事に後悔は全くありません。



二回もハンガリーを選んだからには特別な何かがハンガリーにあるのか。実はよく分かりません。「なんとなく好きになったから」というのが本当の理由です。先日、友人から「どうしてそんなにハンガリーが好きになったの？」と聞かれました。「なんとなく」と答えるわけにもいかず、私は、的確な返事が分からないまま、「ハンガリー人は優しいから」などと答えました。確かにハンガリー人は優しいです。でもそれは、私の周りに日本語学科の友人が多い中で、私が「日本から来た留学生」だからよくしてもらい、ここでは「人気者」でいられるので、それでいい気になっているだけなのかもしれません。それでもやはり、たくさんの友人ができたことは事実だし、親日国のハンガリーには日本が好きな人が多いのでそういう友人ができることは不思議な事ではないです。例えば、日本が母国でも、日本に友人がいなければ日本での生

活も寂しいですよ。それに対し、日本の反対に位置する遠く離れたブラジルでもたくさん友人がいれば、母国でなくともブラジルの生活は楽しいと思います。私はそれがハンガリーだったというだけです。ハンガリーで経験したことはかなりたくさんありますが、やはり、私がハンガリーで得た一番大きなものは友人です。これは、ハンガリーを選んでよかったと思う理由でもあります。

ハンガリーで大変なことはないのか。もちろんあります。でもそれは、生まれ育った国でない限りどここの国に行っても同じだと思います。例えば、ハンガリーではどんな手続きにも結構な長い時間を要します。何かの書類を申請して、なかなか手続きが上手くいかず、たらい回しにされることがあります。その結果、提出期限間に合わない、となる場合もあります。私の場合は、出発前の飛行機はいつ到着するものを買えばいいのか。大学から

のいつからオリエンテーションが始まって、いつから授業が始まるなどの連絡を待っていては、いつまでたっても飛行機のチケットは買えません。だったら、自分からスケジュールを聞けばいいのです。締め切りに間に合わないかもしれないなら、逆算して前もって行動すればいいのです。私も知らないことは先輩や友人に聞いて、失敗しながら次はどうすればいいのかを学びながらハンガリーで生活するコツを習得してきました。今でも習得中です。他にも、「ああ、やっぱりハンガリーだな」と思うようなことは多々あります。しかし、私はそれも含めてハンガリーが好きだし、「不便な生活で嫌だ」と思ったことはありません。頭にきたことはありますが…。

える国を見つけてもらえたら嬉しいです。

(おおた・はるき)

正直なところ、中高時代はとりあえず進学するために、周りの人もしているから勉強して大学まで来ました。しかし、ハンガリーに留学するという選択をしたことで、学びたいことを見つけたし、将来の夢も見つけたし、人見知りも前よりは克服できたと思います。そして、いろんな人と話すのが楽しいと思えるようになり、私も心なしか日本にいるときより性格が丸いような気がします。まだまだ20年ちょっとしか生きていないですが、ハンガリーで過ごした一年半は間違いなく今までの私の人生で一番輝いている瞬間であり、私を変えてくれました。ハンガリー留学は正しい選択だったと心から思います。日本にはハンガリーがどこに位置している国なのかも知らない人もいます。私は留学を通して、ハンガリーを多くの人に知ってもらいたいと思いました。留学で何を得的のかは人それぞれです。私はハンガリーで何を勉強したか聞かれば、自信を持って「これです！」と答えられません。しかし、上にも書いたように友人はたくさんできたし、ハンガリーで出会った方々の温かさには人一倍触れられたと思います。これから留学を考えている人は私の記事を読んでハンガリーでなくても「ここに留学してよかった」と思

私と、ハンガリーと、ランニングと

日野 暢



「何で走っているんですか？」「ただ辛いだけじゃないですか？」「何を目標しているんですか？」…赴任した3年間で多くの方に質問をされた。

実は小学校4年生まで肥満児であった。水泳学習や身体測定がある度に、自分の体形を指摘されたらどうしようと考えることがよくあった。ここで私のコンプレックスが確立されたのである。5年生の時に身長が15cm伸びたにも関わらず体重が変わらなかったこと、そして中学校で陸上部に入部したため、体形が現在のようになった。「長距離をしていたからマラソンが趣味になった。」と思われがちだが、していた種目は「走り幅跳び」であり、長距離は大嫌いだし大の苦手であった。高校3年生まで6年間、走り幅跳びを続けた。長距離はむしろ避け続けた。

大学2年生の時、飲食店でアルバイトを始めたことと、飲食量が増えたのが原因で体重が一気に

増加した。インターネットで調べたところ、「昔肥満だった人は、肥満の細胞を持っているため、太りやすい体質である。」と言う記事を発見した。それに納得した私は、ダイエットのために走り幅跳びをしようと考えた。しかし、大学やアパートの近くで気軽に幅跳びができる場所などない。考えた末、いつでも・どこでもダイエットができるランニングをすることにした。大の苦手な長距離ではあるが、コンプレックス克服のために走り始めた。ただ元々が苦手であったため、1回2km程度のランニングしかなかった。

転機が訪れたのは28歳の夏だった。友人に誘われて日本三景を走る「松島ハーフマラソン」に参加した。人生初のレースである。13km付近から全く足が進まなくなり、20kmあたりからは意識が朦朧としてきて蛇行を始めた。何とかゴールすることができたが、不思議だったのがゴールした瞬間に「辛さ」ではなく「達成感」を真っ

先に感じた。走り切った解放感・到達感・達成感は今まで経験したことのないものであった。そして見慣れていた松島が今までとは違う景色に見えた。全体が煌々と輝いているのである。この一瞬の経験がターニングポイントとなり、本格的なランニング生活がスタートしたのである。



個人的に、体育科の目標の1つは「生涯できるスポーツを探すこと」だと思っている。日本人学校で関わった児童生徒の皆さんも、生涯できるスポーツを見つけてもらえたら嬉しいし、体育や部活動を教えていた身としても幸せに尽きる。結局私は大の苦手で大嫌いだった「長距離」を、生涯スポーツとして選択した。中学校時代の私からは想像もできない。皆さんも今は大嫌いで大の苦手なものが、将来好きになるかもしれない。何がきっかけか分からない人生をぜひ楽しんでもらいたい。

1年半前に誕生日プレゼントでもらったランニング用の時計の中に、走行距離が累積でカウントされる機能がある。久々に見たところ、約600kmだった。2倍すると約1200km。デブレツェンからショプロンまでが徒歩で約430kmなので、随分ハンガリーの中を走ったなと感じた。そんな1200kmの中には多くのものが詰まっている。一緒にマラソン大会に出場していただいた皆様と共に達成感を味わったこと。日本人学校の職員室内で、私のどうでも良いランニング話に温かく付き合ってくれたり、大会中に声援を送っ

てくれたりした仲間がいたこと。家族全員でマラソン大会に参加することができたこと。暑くて大変だったウィズエアーマラソンや、寒くてどうしようもなかったバラトン湖での K&H マラソンにも、必ず来て「パパ頑張っ！と応援してくれた双子のような我が子。そしてそんな娘と息子がランニングに意欲的・積極的になってくれたこと。走ることでたくさんの宝物をハンガリーでのランニング生活から頂いた。ランニングをしたからこそ見ることができた素晴らしい景観や環境、ランニングをしていたからこそ経験できた素晴らしい大会、ランニングをしたからこそつながった素晴らしい仲間、そしてランニングをしたからこそできた素晴らしい思い出の数々。その全てに感謝をし、そして骨折に気を付けながら生涯現役ランナー&健康維持増進に向けて走り続けたい。

(ひの・とおる、日本人学校教員)

緑の丘日本語補習校バザーの報告

《衣類ブース》

今年も衣類ブースには、子供から大人サイズまで、服・くつ・小物がたくさん集まり、お客様には詰め放題の形でお買い物を楽しんでいただきました。今までのように仕分け作業にたっぷりと時間をとることができなかったのにも関わらず、服を集める段階から、ご自宅での仕分けにご協力いただき、保護者の皆様をはじめ、有志の補習校の生徒さんたちの手際のよさのおかげで、スムーズに商品を仕分け、並べることができました。みなさんとワイワイ話しながら商品を仕分けするのも、この衣類ブースの醍醐味の一つですね。

今回は、去年のお客様からのフィードバックと、環境への配慮から、詰め放題に使う袋は、とうもろこしを原料とした「土に還る」ビニール袋を使用。プラスチックでできた袋に比べると、ちょっと破れやすいという難点もありましたが、もう一枚の袋で補強するなどして、特に問題ありませんでした。

残った服は、バザー終了後にリサイクル業者に引き取ってもらい、また新たな使い手のもとに届けられます。皆様のアイデアとご協力に感謝しています。ありがとうございました。

《雑貨ブース》

毎年恒例の補習校バザーが今年も 11 月末に行われました。今年の 9 月より学校の場所が変わったことに伴い、バザーの時期、準備等もがらっと変わり、バザー担当の保

護者、運営委員の皆さんも大変だったのではと思います。雑貨ブースを長く担当している私も、時間内に準備が終わるのか、商品は十分に集まるのかなど、不安を抱えていました。今までは数週間かけて準備をしてきた値付けや商品集めを、今回は前日のみで行いましたが、雑貨ブース担当の保護者、ボランティアの方々と協力して乗り切り、同日の商品並べも、長年のバザー経験を活かしたチームワークで大きな問題もなく無事終わることが出来ました。今回初めて導入された補習校卒業生のボランティアもとても頼りになりました。成長した彼らと交流しながらバザーをすることが出来たのは、何より嬉しいことでした。

《食品ブース》

今年は学校の移転、開催日の変更などの理由で準備段階から不安がありました。ただ良い点もあり、会場が広くなったこと、また食品ブースではキッチンを借りることができ作業がしやすくなりました。

開催が決定してからは保護者間で連絡を取り合い、商品の内容、買い出し、準備物などの相談をしていきました。ちょうど日本へ出張される保護者の方がおり困難な日本食の調達も安価で質の良いものを揃えることができました。昨年に続き売上の良かった「いなり寿司」と「おにぎり」に力をいれました。新商品のアイデアは幾つかありましたが、今回はお味噌汁を新しく出品しました。

当日は朝 9 時の集合で担当者がお米を炊

いて家から持ち寄り、学校のキッチンでいなりを詰めたり、おにぎりを握ったりの作業をひたすら繰り返すこと数時間であったという間に1時の開催時間になっていました。

商品を陳列するときには、保護者の方々の協力で抹茶の焼き菓子もバリエーションにとんだものが集まりました。また日清食品さんからご協力いただいた即席ラーメンも陳列させていただきました。開催間近になってもキッチンでの作業が続いていましたが、生徒のボランティアが販売のお手伝いをしていただきなんとか開催することができました。

昨年より倍量で用意したいなり寿司やおにぎりも完売し、お菓子もすべて完売することができ例年より売れ行きがあがるという予想外の結果になりました。

これも保護者の皆様、日清食品さんのご協力、ボランティアの力があってこそその結果だと思います。皆様ご協力ありがとうございました。

《クラフトブース》

今年度のバザーは、補習校が新しい学校に移転したため、これまで行なってきた土曜日の授業後の開催が難しくなり、バザーをやめるか、11月の日曜日に開催するかの二択となった。これはこの学校に通う高校生達が、土曜日ごとに体育館で卒業パーティーの練習をするため、土曜日はバザーの準備も開催もできなくなったためだ。9月下旬に「11月18日(日)バザー開催決定」が発表されると、私はにわかに焦りを感じるようになった。というのは、クラフトコーナーで売る品物作りが、短時間でどれだけ出来るのか未知数であったからだ。けれ

どその時点で学校カレンダーをよく確認していなかった私は、10月と11月合わせたら、数回は保護者有志で集まって、何らかのクラフト作業が進められるのではないかと、どこか楽観的に考えていた部分もあった。ところが、である。現実には2学期の土曜日は稼働日が多くて補習校が休みになり、10月20日と27日のたった2回しか、クラフトサークルを行なえなかったのだ。もうこうなったら、クラフト担当の私たちが頑張るしかないのかと、週末は多くの時間をミシンの前で過ごした。バザー前夜も遅くまでミシンを踏んで、そこそこ品数は揃えたのだが、バザー当日にちょっとした肩透かしがあった。昨年度好評だった「キャラクター布で作った巾着袋・袋物」の売れ行きが、今回はイマイチだったのだ。ポケモンの布で作った巾着袋はあつという間に売り切れ、ユニコーンの布の巾着袋も完売したのだが、他のキャラクターものの売れ行きがさっぱりだった。昨年度のワンピースとポケモンの生地のような、中性的な人気キャラの布が当たるのかもしれない。クラフトコーナーに立ち寄る客層が、例年とは違っていたことも影響している。いつもはどっと押し寄せる高校生・大学生のアニメファンが、今年はまばらだったことも、キャラ袋が売れなかった原因となっている。もうこの辺は運を天に任すしかないのか。それとも広告の出し様で、もっと広い地域や世代の人達にアピールできるものなのか。

また問題点としては、昨年度のT小学校の地下に保管しておいたクリスマス・オーナメントその他が見当たらず、今回はクリスマス色のないクラフトコーナーになって

しまったこと。それでもかなり売り上げられたのは、アクセサリーが大当たりしたことだろう。老若男女問わず、多くのお客さん

が足を止めて見てくださったり、購入してくださったりで、今回のクラフトコーナーの売り上げの中軸を担っていたと言える。

ラパイ茉莉奈(中学3年)

11月18日、日曜日に、セント・アンゲラ小学校の体育館で、補習校のバザーが行われました。私には今年が最後のバザーになるので、お店を出すつもりでしたが、ボランティアが出来ると聞いたので、そっちを選びました。

今回は学校の場所が変わってしまったので、お客さんが集まるかどうか心配していましたが、すごくたくさんの方が来てくれたので嬉しかったです。私は今年も食品コーナーのお手伝いに行きました。お客さんは、目当ての食べ物だけ買ってさっさと立ち去る人が多かったのですが、時々私としゃべってくれる人がいたので、そんな時は落ち着いて仕事が出来ました。一番売れたのは抹茶ケーキや抹茶クッキーでした。お寿司やおにぎりもよく売れていました。ハンガリー人のお客さんは、麦茶や紅茶を苦いと言う人が多かったので、私は砂糖を使ってくださいと勧めました。臨機応変に対応出来たと思います。

私自身もお寿司やおにぎりを買いました。けれどずっと食品コーナーのお手伝いをしていたので、ボランティアをした子だけが使える「遊び券」を使いそびれてしまいました。最後のバザーだったのにそれが残念で、少し悲しくなりました。でもケーキやクッキーが美味しかったと言うために、わざわざ戻って来てくれたお客さんもいたので嬉しくて、心がほんわり温かくなりました。



コルナイが綴る 20 世紀中欧の歴史証言

池田信夫「21世紀最初の10年ベスト経済書」第2位にランク
「週刊ダイヤモンド」2006年ベスト経済書第9位にランクイン

コルナイ・ヤーノシュ自伝

—思索する力を得てコルナイ・ヤーノシュ【著】 盛田常夫【訳】

◆好評発売中！ ◆定価 4935 円（税込） ◆A 5 判／ ISBN 4-535-55473-0 日本評論社



体制転換 の経済学

黄色の教科書シリーズで知られる専門学
部の定番テキスト。体制転換の理論と転
換直後の現状を分析。各大学で教科書と
して使用。

盛田常夫著

第一部 社会主義経済の失敗

社会主義崩壊をもたらした社会的退化への論理を構築。交換経済と再分配経済の
比較分析に新たな視点を提供。

第二部 ポスト社会主義経済

体制転換の過渡期の問題をすべて取り上げ、解決の道筋を示す。地域による体
制転換の違いを解明。

■ 新世社 新経済学ライブラリー20 定価2781円(税込)



なぜハンガリーは独創的な科学者を輩出したのか

20 世紀を創ったハンガリー人 マルクス・ジョルジュ【著】 盛田常夫【編訳】

■ 定価 3045 円（税込） A 5 判

■ ISBN 4-535-78331-4

異星人伝説

「週刊文春」(米原万里)、「週刊ダイヤモンド」(北村伸行一橋大学教授)で書評。

ハンガリーは 20 世紀の科学の発展に貢献した多くの頭脳を
輩出した。大きな足跡を残した科学者たちの評伝。

体制転換20年の歴史的・理論的総括の書

ポスト社会主義の政治経済学

体制転換20年のハンガリー：旧体制の変化と継続

新しい概念を駆使して、体制転換以後の中欧社会の状況を分析。

日本経済新聞(2010年3月21日)ほか、多数の書評。

旧来の定説を覆し、新たな知見を広める革新の書。

盛田 常夫著

日本評論社

定価3800円

